



櫻本市長の「為せば成る」

9日間開催した「TRY！駅前パーク」には多くの方にご来場いただきました。また、市民活動団体や民間企業等にも多大なるご協力をいただき、駅前の活用に関する社会実験を実施することが出来ました。ご参加いただきました全ての方々に深く感謝申し上げます。「市民・民間の力を最大限に活かすまち」をめざす観点からも、今回の社会実験において、このように協働で開催できたことは野洲の未来に向けての大きな一歩であったと考えています。

今回の実験は来場者の数を追い求めるものではなく、今後の市民広場整備に向けた検証として「飲食」「憩い」「体験」などの機能を中心に、昼間にご活用いただける市民等をターゲットに置き、現実的で日常的な活用の姿を想定して実

施いたしました。いただいたアンケート等をもとに市民広場に対して求められる機能や利用形態について分析してまいります。私自身、期間中何度も会場に足を運びましたが、来場者の方からは「芝生は無くさないでほしい」「もっとお店を増やしてほしい」「ようやく駅前がいい方向に動き出した」「早く整備を進めてほしい」など前向きなお声を沢山いただきました。中には厳しいご意見もありましたが、それらを含めて今後の整備に活かしてまいります。

この駅前市民広場における賑わいは私たち自身が創り、みんなで成長させていくことが私の理想とするところです。これからも一緒に私たち野洲市民の誇りとなる駅前を創っていきましょう！秋にはターゲットを変えて第2弾「TRY！駅前パーク」を開催しますので、是非ご参加ください。



つながる、ひろがる、野洲の玄関口



問い合わせ…やす未来創造課 ☎587-7001、FAX586-2200

野洲駅南口市有地における社会実験「TRY!駅前パーク」を実施しました!

「野洲駅南口周辺整備構想」における市民広場の整備に向けた社会実験として、JR野洲駅南口市有地（Aブロック）でイベントを実施しました。多くの人にご来場いただき、飲食や憩い、市民活動などさまざまなコンテンツを体験いただきました。アンケートにもご協力いただき、ありがとうございました。今回得た結果は、野洲駅南口周辺整備基本計画の検討などに活用していき、整備を進めていきます。

開催中の様子



ステージ発表

飲食、憩い、市民活動などさまざまなコンテンツを実施しました!



芝生エリア(遊び)



キッチンカー



スポーツ体験

参加者の声



飲食ができるよう
飲食店や
キッチンカーが
欲しい

安全で安心して使える
広場ができることを
期待している

ベンチや
屋根の下で
過ごしたい



秋にも同エリアにて、社会実験のイベントを予定しています。詳細は広報10月号に掲載予定で、順次市ホームページでも情報を掲載しますので、ご確認ください!

社会実験イベントの他にも、同エリアでお試し利用ができるトライアル・サウンディングも実施しています。希望者は、実施要領などをご確認の上、申請をお願いします。

野洲駅前のみらい

野洲駅南口周辺整備事業では、昨年度見直した構想をもとに、今年度基本計画の策定を進めています。駅前を「通過するだけの場所」ではなく、「人が集い・働き・楽しみ・交流する場所」として、まちの新しい顔となる駅前空間をめざし、整備の内容や進め方を具体的に検討しています。

整備対象のエリアで最も大きいDブロックにて検討している野洲文化ホールの大規模改修（案）を含む3案の中で、今回、既存施設の改修ではないため市民の皆さまがイメージしにくい「エンターテインメントアリーナ整備（案）」と「企業オフィス誘致 + 新小劇場整備（案）」がどのようなものかをご紹介します！



Dブロック
約10,900㎡＝サッカーコート(約1.5面分)

●エンターテインメントアリーナ整備(案) ～スポーツ・イベントを支える多目的拠点へ～

エンターテインメントアリーナは、スポーツの試合や音楽興行、催事など、幅広い用途で活用できる多目的施設、まちの核となるスマート・ベニュー※として検討しています。主に競技や運動の場として利用される体育館とは異なり、観客席や音響・照明などを備え、観る楽しさや一体感を生み出せる施設となることを想定しています。収容人数が5,000人を超える施設に、市内外から人が訪れることで、駅前のにぎわいが生まれ、周辺の商業や飲食などにも良い影響が期待されます。また、市民がスポーツやイベントをより身近に楽しめる場としても、大きな役割を担うことが見込まれます。



※スマート・ベニューとは…

日本政策投資銀行が提唱する、周辺エリアのまちづくりと連携しながら、人が集い、にぎわいを生み出す持続可能な交流施設のことで。エンターテインメントアリーナは、スポーツや音楽などをきっかけに人が集まり、そこから地域の活性化につながる拠点として、この考え方を取り入れて検討しています。

- バスケットボールやバレーボールなどのスポーツ興行
 - コンサートなどの音楽興行
 - 企業の展示会や会議
 - はたちのつどいやスポーツ大会などの市行事
- などの活用を想定

＜エンターテインメントアリーナと体育館の違い＞

	エンターテインメントアリーナ	一般的な体育館
利用目的	スポーツの試合やコンサートなどの興行イベントのほか、展示会や会議、企業イベントなどのビジネス目的の利用	運動をするための施設で、地域住民のスポーツ活動や学校事業などに利用
設備	可動席、大型スクリーン、照明、音響設備が充実	床材やバスケットゴールなどスポーツに必要な設備が設けられている
空間設計・雰囲気	観客席がフロアやステージを囲む形やイベント向けの多目的設計で非日常的な演出重視	フラットで競技に適した広い床面が中心で日常利用やスポーツ実用重視
施設規模	大規模イベントに対応するため、5,000～10,000人が収容可能な大規模施設が多い	規模は比較的小さく、観客席は数百～数千人が収容可能な規模

➡ エンターテインメントアリーナは、観客がスポーツやイベントを観て楽しむことを重視した施設であり、体育館は、市民が競技や運動などに利用することを主な目的とした施設です。

●企業オフィス誘致 + 新小劇場整備(案)

～働く場と文化の場を駅前に～

駅前に企業オフィスを誘致することで、働く人が集まり、平日の日中も人の流れが生まれる「にぎわいのある駅前」となることが期待されます。また、新小劇場は、文化活動の場として活用できる施設で、市民が文化や芸術に親しむ機会を増やすとともに、地域の魅力を発信する拠点としても役割が期待されます。

働く場と文化の場が駅前にあることで、駅前に新たな交流が生まれ、日中も人が行き交う、魅力あるエリアづくりに繋がります。

企業オフィスイメージ

- 本社機能を備えたオフィス、または数社が利用する複合オフィス



小劇場イメージ

- 300人収容可能
- 多様な用途に対応可能な客席、音響防音設備

このようなイメージを実現するために今年度エリア全体の基本計画策定を行っており、Dブロックでは今回ご紹介した2案に野洲文化ホールの大規模改修案を合わせた3案を中心として検討を行います！

検討の進捗などは随時情報発信していきますので市ホームページなどでご確認ください！

